

大豆栽培ごよみ(陸立)

名水の里 黒部 大豆栽培の要点

- ①大豆づくりは排水第一
- ②石灰質資材と堆肥等有機物の施用で土づくり
- ③種子塗抹処理剤の施用
- ④乾いた状態での適期播種
- ⑤中耕培土と除草対策の徹底
- ⑥干ばつ時の畦間かん水
- ⑦病害虫防除の徹底
- ⑧適期収穫と的確な乾燥調整



＜大豆250kgどりの収量構成要素＞

10a当株数	14,000株	1株当莢数	40莢
1莢当粒数	1.8粒	百粒重	28g
(14,000×40×1.8×0.028=250kg超)			

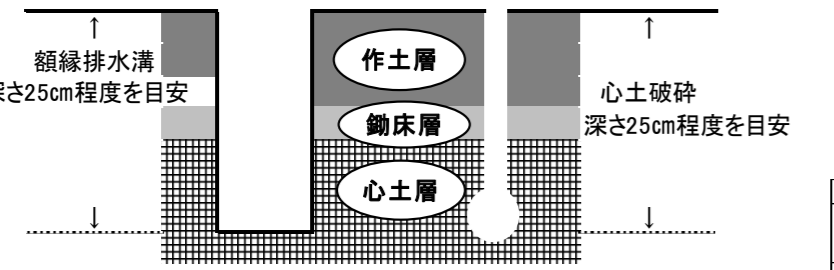
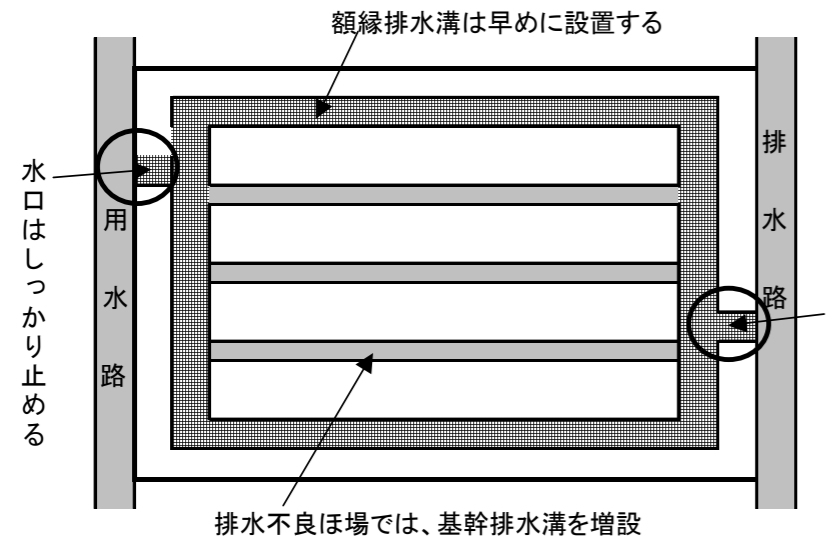
生育期除草剤散布

対象雑草	除草剤名	10a当たり		散布方法等
		使用量	希釈水量	
イネ科	ポルトフロアブル	200~300ml	50~100%	イネ科雑草3~10期 雑草茎葉散布又は全面散布 収穫30日前まで 1回のみ
	ナブ乳剤	200ml	100%	イネ科雑草6~8葉期 雑草茎葉散布又は全面散布 収穫30日前まで 1回のみ
広葉	大豆ハサグラン液剤	100~150ml	100%	大豆2葉期~開花前 雑草茎葉散布又は 全面散布 収穫45日前まで 1回のみ
		300~500ml	100%	大豆の生育期 畦間雑草茎葉散布 収穫45日前まで 1回のみ
非選択性	ロックス	200g	75~150%	大豆3葉期~収穫30日前まで 畦間・株間処理(雑草15cm程度) 1回のみ
	バスタ液剤	300~500ml	100~150%	畦間処理(雑草生育期) 株間処理(大豆5葉期以降) 収穫28日前まで 3回まで

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
作業	①排水対策 排水溝と排水口の連結	②土壌改良資材等の施用 ③種子の準備 ④播種 ・畦立 ・基肥施用 ・除草剤散布	⑤培土(1回目) 排水溝の手直し	⑤培土(2回目) 排水溝の手直し	⑦基本防除(2回目) 子実が米粒位の大きさ	⑦基本防除(3回目) 子実が豆粒の大きさ	⑧収穫 JA乾燥調製施設の利用 (品質の均一化)

①排水対策

- ・春先までに額縁排水溝と基幹排水溝を設置し、排水口につないで雨水をためない
(透水性の悪い場合は、心土破碎を行う)



②土づくり

- ・pH6.5を目標に、石灰質資材を耕起前に施用する
(粒状貝化石150kg、チャンピオン60kg散布でpH5.5→6.5)

	肥料名	施用量/10a
酸度矯正	粒状貝化石	150~200kg
	チャンピオン	60kg
有機物	牛ふん堆肥	2t
	豚ふん堆肥	1t
	発酵けいふん	150kg
	ヘアリーベッチなど地力増進作物の鋤きこみ	

堆肥などは前秋に散布を終えましょう

③種子の準備

種子の更新...自家種子の連用は品種特性退化と病害発生の原因!

品 種	播種時期	栽植本数/10a	10aあたり播種量 ^{注1}
えんれいのそら	5月下旬~6月上旬	14,000~16,000	5.5~6.3kg
	6月中旬	16,000~18,000	6.3~7.1kg
シュウレイ	5月下旬~6月上旬	12,000~15,000	5.0~6.3kg
	6月中旬	15,000~18,000	6.3~7.6kg
オオツル	6月上旬	10,000~12,000	4.3~5.1kg
	6月中旬	12,000~14,000	5.1~6.0kg

注1) 苗立率85%、百粒重をえんれいのそら33.4g、シュウレイ35.7g、オオツル36.3gで算出

【種子消毒の方法】

種子処理剤名	処理方法	対象病害虫
単独処理 クルーザー-MAXX	種子1kgに8mℓ塗抹	紫斑病、萎疫病、リクトニア根腐病、タネバエ、ハト、ネキリムシ類、アブラムシ類、フタスジヒメハムシ
体系処理 クルーザー-FS30	種子1kgにクルーザーを6mℓ混ぜて塗抹する1分間ほど広げて乾かす クルーザーが乾いたら、種子1kgに水20mℓを混ぜて塗抹し広げて乾かす	タネバエ、ネキリムシ類、アブラムシ類、フタスジヒメハムシ
体系処理 キヒゲンR-2707アル	種子1kgに水20mℓを混ぜて塗抹し広げて乾かす	紫斑病、タネバエ、ハト、カラス

④播 種

- ・必ずほ場が乾いた状態で播種をする
- ・播種深度は3cmに調整する
- ・畦立同時播種技術もあわせて実施・湿害回避
- ・播種速度は30aを70分で終える速度(3連)

品種	栽植本数(本/10a)	目皿	スプロケット	
			目皿側	車輪側
えんれいのそら	14,000~16,000	B-2	10~11	13
	16,000~18,000		9~10	14
シュウレイ	12,000~15,000	B-3	11	13
	15,000~18,000		9	14
オオツル	10,000~12,000	B-3	13	11
	12,000~14,000		10	11

基 肥	肥料名	土壌区	施用量/10a
		砂壌土	20~26kg
	15-15-15	埴壌土	13~20kg
麦跡は10~15kg増			

除 草	除草剤名		散布量/10a	
	ラクサー乳剤			500ml+水100%
	トレファンサイド乳剤			300ml+水100%

⑤的確な中耕培土(土寄せ)

時期	1回目	2回目
	2~3葉期頃 (播種20~25日後頃)	4~5葉期頃 (播種30~35日後頃)
方法	子葉が埋まる程度	初生葉が埋まる程度

水がたまらないよう株もとまで土をとばす
培土溝は額縁排水溝及び排水口につなぐ

⑥畦間かん水

- ・開花後10~40日の間、3日以上晴天が続いたらかん水
- ・圃場全体に水が行きわたったら速やかに排水する

⑦病害虫防除

薬剤区分	回	防除剤名	散布方法	10a当たり散布量	倍率
基本防除	1回目	プレバソフフロアブル5	無人航空機	150%	4,000
		トライフフロアブル	無人航空機	150%	1,000
		スタークル液剤10	無人航空機	150%	1,000
	2回目	アミスタートレボンSE	無人航空機	150%	8倍
		ダントツH粉剤DL	動力散布機	4kg	
		トライトレボン粉剤DL	動力散布機	3kg	
随時防除	3回目	マラソン乳剤	無人航空機	150%	2,000
		ダントツ粉剤DL	動力散布機	4kg	
	アブラムシ類	ハスモンヨトウ	無人航空機	150%	4,000
		ハダニ類	コロマイト乳剤	無人航空機	150%
		カスケード乳剤	無人航空機	0.8%	32倍

⑧適期刈取・乾燥調整

- ・ほ場内の雑草や青立株は早めに抜き取っておく
- ・子実水分が22%以下になったら刈取開始
- ・午前10時~午後4時の子実が乾いた時間帯に刈取
- ・刈取高は地際から10cm程度
- ・乾燥は外気温+5℃以内、乾減率0.3%/時 以下
- ・品質に差がある場合は区分して混ぜない